



もとはし つうしん

本橋通信

第7号

2021年3月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111／メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★

◆新しい生活様式で変わる買い物体験の満足度◆

皆さまこんにちは。本橋通信第7号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。今月号は最近感じた新感覚の「切ない話」を皆さんに。とは言え、全く深刻な話ではありません。

私はワニのワンポイントがトレードマークの「ラコステ」が好きなのですが、在宅での仕事中にオンライン公式ショップを見てると、ジャストサイズかつナイスなスニーカー残り2点を見つけ、「おしぃ！」と即購入。ご注文の商品を発送しましたという思わせぶりなメールにまた少し期待が高まりつつ、急ぐものでもないとは言え、到着が待ち遠しいこの時間もWEBでの買い物の新たな体験の一つと思っていました。

そんな矢先にある事件が！まだ我が家にワニのスニーカーが到着しない翌々日に、ド派手で真っ赤な「TIME SALE MAX70%OFF」のラインが私のスマホに届いたのです。これは、自分がセールで買ったものを身に付けながら、実店舗でより安く最終処分されているのを目の当たりにするションボリ感を超えています。まだWEBで注文し未だ手許に来ない状態で、○日に必ずお届けしますからお楽しみにと言われつつ、「残り1点お早めに」の親切メッセージに、ガッカリ感が増幅されます。これもコロナによって脚光を浴びたオンラインショッピングという「新しい生活様式」における新しい購買体験なのかと、何か釈然としない思いで新しいスニーカーと対面しました。そして私は、折角のMAX70%OFFであれば、ついでにポロシャツもと考えましたが、最近は引き籠りだし、やっぱりユニクロで十分かなーとか思っててしまったりして。見栄張りの昭和生まれ人間には、それはそれでちょっと切ない感じが…

本を探すのもアマゾンでは電子書籍と間違えるので、本屋ブラブラが大好き派でもあり、新聞は電子版より、大きく紙面を広げてタテヨコ斜めに面白い記事探し派でもある昭和人間の私から、新様式の買い物における顧客心理(悲)のご報告でした。



■MFAO(Motohashi Financial Advisors Office)の本棚より■

たまには全く堅苦しくない本を。確か何処かにあったハズと本棚を探すと、、、ありましたアノ絵本！「おおきな木」シェル・シルヴァスタイン：村上春樹訳。原題は“The Giving Tree”であり、与え続けるりんごの木(母親の象徴)と、成長しても要求し続ける少年(子供)の物語です。とても簡単な数行の言葉と大きな絵しかないので、単なる子供向けの読み聞かせ絵本のような印象はなく、何時になっても何度も読んでも、異なる気付きというか感情というか「心の変化」のような感じを受けます。

※そもそも…何となく出来合いの言葉で表現することが難しいのです。

時には全てを許し寛大に接する親として、時には成長して大人となり先を急ぐ少年に自分を重ねるからでしょうか？訳者あとがきには、りんごの木と少年を何の象徴とするかは読み手の自由で、あえて言葉にする必要もなく、この物語は人の心を映す自然の鏡のようなものと言っています。久しぶりに再会した絵本ですが、私はこれからも何度も読み返してみることでしょう。



★この絵本、奇遇にも私と田村お互いの本棚にありました…田村曰く「棺桶に入れて欲しい一冊」とのこと★

＊IFA本橋の視点より＊ 新しい時代の金融機関の新「手数料」って…

私は幼い頃から「おカネが大好きでした…」なんて言うと、何だアイツ！となる訳ですが(笑)、正確に言うと「小銭貯金がとても楽しみでした」という事になります。我が家ではウイスキーの空瓶や大きなお腹のエビスさまの瀬戸モノにお釣りの小銭を貯め込み、いよいよモウ限界という時に、家族でジャラジャラと集めて銀行に持ち込むというイベントがありました。子供ながらにその瞬間はワクワクした記憶があります。今でも私はお釣りの小銭は貯金箱に分けておき、どんな事に無駄遣いしても誰にも文句を言われないお小遣いを捻出しています。先日、この楽しみを実現すべく地元の信用金庫に小銭を持ち込むと、「恐れ入りますが、大量硬貨入金手数料が新設され、501枚～1000枚までは550円、以降500枚毎に550円づつ加算されます」という窓口の方の言葉に我が耳を疑いました。銀の硬貨2枚(550円)が手数料となる訳です。かれは20数年前、銀行マンだった私には、お寺の賽銭や地元のスーパーと百貨店から、気が遠くなるほど大量の小銭、鉛筆で「あるだけ」と書いた伝票と通帳を預り、入金後はお客さまに通帳を返却するという、立派なほぼ半日仕事がありました。勿論お客さまのお金をお客さまの口座に入金するのに手数料など不要です。なんと世知辛いとションボリしつつ、取り敢えず出来るだけ高価な銀の硬貨で500枚だけ入金し、重たい将来のお小遣いと家路につきました…。その後翌日より散歩を兼ねてATMに日参し、毎回100枚(1回の入金限度枚数)の硬貨入金の日が数日続きました(泣)。この「小銭貯金」は従来より、立派な子供の金銭教育プログラムとして米国では存在しています。元々プライベートバンカーだった女性が貯金箱(ハッピー・マネー・ピッグ)を考案して、



Save(貯蓄)、Spend(消費)、Donate(寄付)、Invest(投資)とお金を色分けして管理する「マネー四分法」で、子供たちが金銭感覚とおカネとの向き合い方を楽しく学べるという金融教育プログラムなのです。親子だけでなく学校の先生、我々のようなFAにも大人気。キャッシュレスもいいけど、小銭社会ならではですね。

◆編集後記◆

今年の節分は明治30年(1897年)以来、124年ぶりの2月2日でした。文字通りの“季節の分かれ目”である立春の前日が”節分”で、翌日から春なんです。早く暖かで平和な春の訪れと、福は内を祈るべく、歳の数(46粒)だけ食べるつもりで、節分の豆の袋を空けたのですが…最近の煎り大豆はとても香ばしくて美味しいので、ついつい手が止まらず食べ過ぎてしまいました。そんな豆を頬張りながら、必ずやって来る新しい春に備え、しっかり種まきをして(新しい企画を考え)、またマメマメしくワクワク楽しく働こうと思います！

◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。

早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFG)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。

趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快！)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読？)

お客様に対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…



本橋FαオフィスWEBサイトは **本橋 IFA** と検索！ <https://www.pfa-withyourlife.jp/>
皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp